

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立南川副小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童(中学校3年生生徒)

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

- | |
|--|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。 |
|--|

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

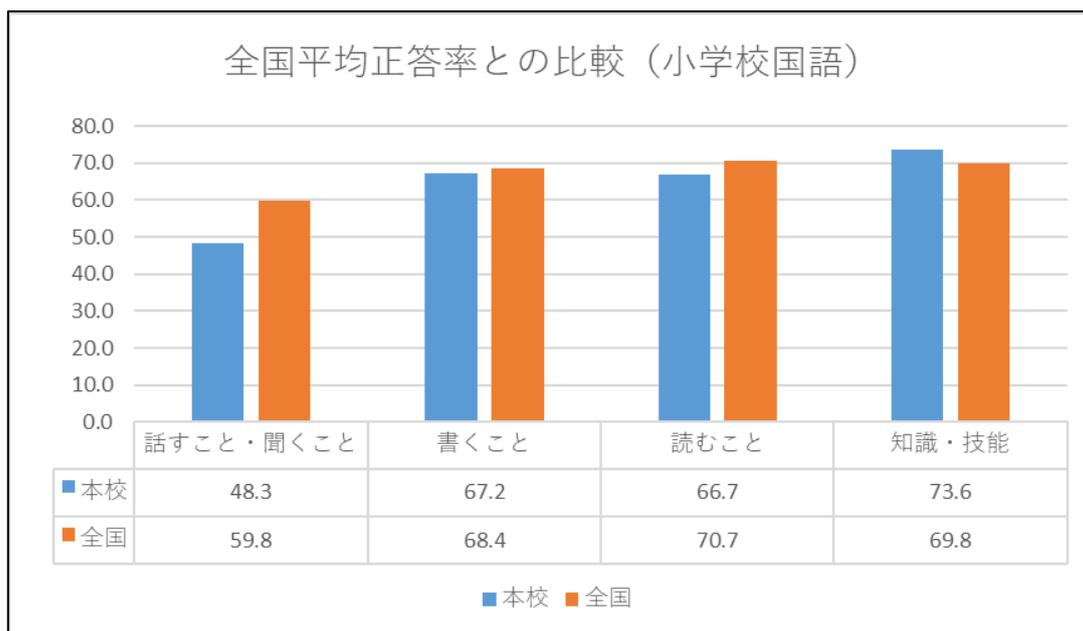
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語(中学校)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

「知識・理解」の領域は全国平均より上回っていますが、それ以外の領域では全国平均を下回る結果でした。無解答率をみると、全問題で全国平均よりもかなり低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」の正答率が全国平均正答率を 3.8 ポイント上回りました。中でも、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」では、全国平均を大きく上回りました。普段から、漢字や言葉の学習などに取り組んでいる成果が表れていると考えられます。また、「記述式」の正答率については、全国平均を 2 ポイント上回りました。課題は、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の力を伸ばすことです。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

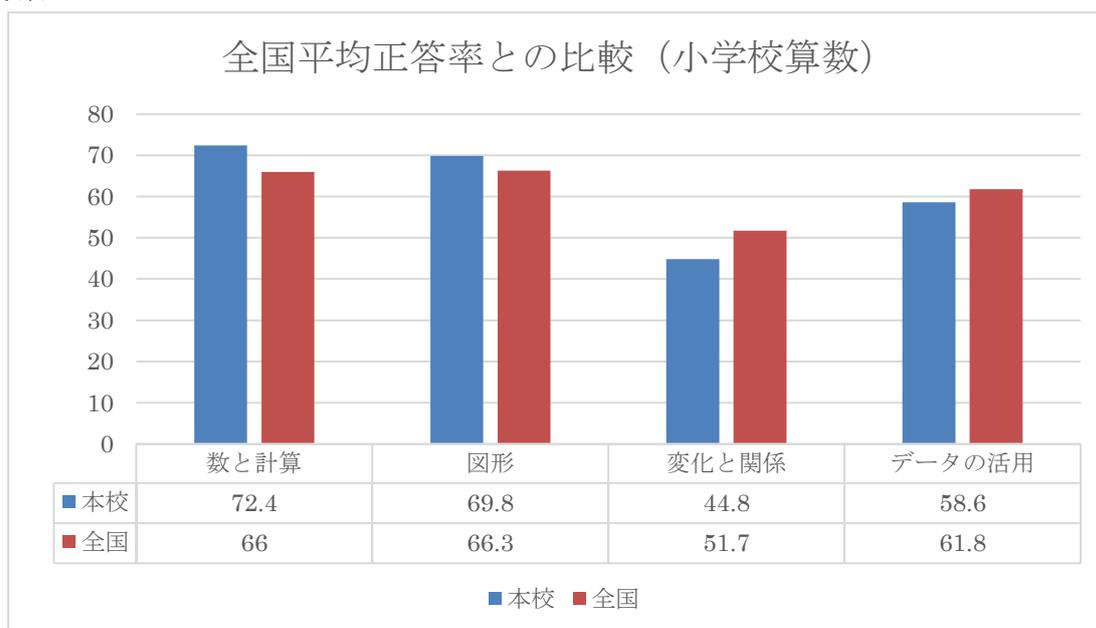
【学校では】

- 児童が主体的・対話的で深い学びができるように、目的意識・相手意識をもたせた単元づくりを行い、インタビューやリーフレットづくりなどの言語活動の場面を設定し、表現力を向上させていきます。
- 週に一回スピーチタイムに取り組み、対話力や基本的な文章読解力の向上を図り他者と交流する機会を増やすことで、伝える力を育てています。
- 漢字の読み書きなど基礎的な内容の定着を図り、国語辞典での意味調べや「ことバンク」による言葉集めを行い、短文づくり等を通して語彙力を増やしていきます。

【ご家庭では】

- 音読することで、語彙力が増える効果があります。まだ知らない単語が多い小学生ですが、できるだけ多くの文章に触れることで語彙力を高めることができます。ご家庭でも音読を聞いていただき、励ましの言葉かけをお願いします。
- 読書習慣がある児童は、いろいろな表現に触れることで語彙力を高め知識の幅を広げることができます。歴史・物語・文学・図鑑…どんなジャンルの本でもよいので、本に興味をもつよう促してください。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、児童の読書習慣をつける上でおすすめです。

2 算数



(1) 結果

「数と計算」「図形」では、全国平均を上回っています。「変化と関係」「データの活用」については、全国平均より低くなっています。無解答率を見ると、すべての問題で全国より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、記述式の問題の平均正答率が全国平均を上回っていました。自分の考えを図や式、言葉を使って論理的に書く機会を増やし、授業改善に取り組んできた成果が表れています。課題は、「変化と関係」の領域の、速さと道のりと時間の関係やその意味に関する問題の正答率が全国平均を下回っていました。

特に単位当たりの量（速さ）については、数値が何を表しているのか、図や関係図等を使って考えたり、問題作りを行ったりすることが大切です。また、データの活用についてもデータを多面的に把握し、資料を正確に読み取ることを通し、生活場面での活用を通して理解できるようにすることが大切です。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 児童が主体的・対話的で深い学びができるよう、低学年ではブロックやおはじきなどによる操作活動、高学年では図・式・言葉を使って説明する学び合い活動の場を設け、南川副小型授業による授業改善を行っています。
- 個別の指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭での課題など、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- 算数の基礎的な力は正確に計算ができることです。学年が上がるにつれて四則計算（たし算、ひき算、かけ算、わり算）は特に重要となってきます。自主学習として計算力アップにつながるドリル問題に取り組むことも大切です。
- お子さんのノートや宿題、テスト等に目を通して、できているところを褒めてください。学校で学習した内容を、ご家庭でお子さんに言葉で説明していただくことも、学習の定着につながります。また、生活場面で算数を使うことも、お子さんが算数に興味関心をもち算数が好きになります。詳しくは※[算数 | 家庭学習の事例集 / 千葉県 \(chiba.lg.jp\)](http://chiba.lg.jp) ←クリック

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・自己肯定感・幸福感について》

調査項目	本校% (昨年)	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	89.6% (100)	93.7%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	93.1% (88.4)	82.9%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	96.5% (84.6)	92.6%
自分にはよいところがあると思いますか。	79.3% (80.8)	84.1%
将来の夢や目標を持っていますか。	82.7% (84.6)	82.4%
学校に行くことは楽しいですか。	72.4% (84.6)	84.8%
友達関係に満足していますか。	93.1% (88.4)	75.8%

生活習慣の項目については、全国と比べるとやや下回る項目もありますが、ほとんどの項目において、昨年度よりも改善されている項目が増えています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきたいと思えます。

自己肯定感や幸福感の項目については、全国平均と比べるとやや下回る項目もありますが、「友達関係に満足している」では、非常に高くなっています。しかしながら、「学校に行くことは楽しい」の項目では、全国を大きく下回っています。学校目標である「自分を磨く子どもの育成」に向けて、「ほめること」を全職員が意識して、みんなで児童と向き合い「楽しい」と思える学校づくりに取り組みます。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校% (昨年)	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	0% (2.4)	11.0%
「2時間以上、3時間より少ない」	17.2% (15.4)	12.5%
「1時間以上、2時間より少ない」	37.9% (30.8)	31.1%
「30分以上、1時間より少ない」	24.1% (38.5)	27.0%
「30分より少ない」	10.3% (7.7)	13.0%
「全くしない」	10.3% (3.8)	5.3%

家庭学習については、1時間未満（6年生の目標は70分以上）の児童が4割以上おり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、音読や漢字練習、計算ドリルなどを中心に読書や自学を推奨し、学年に応じた宿題を出しています。8時からは全校での朝読書を推奨しています。
- 川副中学校区で連携し年3回の「家庭学習がんばろう週間」を設け、家庭学習への支援を行い、学習意欲の向上や学習習慣の定着を図っています。チェックカードでできたことをほめることで、効果が表れてきているので、これからも継続していきます。

【ご家庭では】

- 「早寝・早起き・朝ごはん」の合言葉に規則正しい生活習慣の定着をお願いします。「生活振り返り週間」でも取り上げている内容でもあります。テレビやゲームの使用時間を決めるなど家庭のルール作りも、生活習慣の定着につながります。
- 6年生は70分、5年生は60分、4年生は50分、3年生は40分、1・2年生は30分が家庭学習時間です。「家庭学習のてびき」を参考に毎日達成できるよう、励ましてください。